

きゅうりタウン構想の実現に向けたさらなる展開

ねらい

海部郡では、県南の温暖な気候と冬期日照量が多い自然条件を活かし、長年にわたり促成キュウリ栽培が盛んに行われてきましたが、生産者数は最盛時の1/4まで減少しています。

このため、JAかいふ、海部郡3町、県（農業支援センター）で組織する「海部次世代園芸産地創生推進協議会」を立ち上げ、移住就農による担い手確保と産地活性化を目標とした10年構想「きゅうりタウン構想」の実現に向け、地域が一体となって取り組みました。

活動地域・対象

地域：海部郡全域 ・ 対象：移住就農者、新規就農希望者、施設キュウリ生産者等

普及活動の目標

移住就農による担い手確保により産地活性化を目指す「きゅうりタウン構想」の実現に向けて産地面積、収量増による所得増に取り組みます。また、この取り組みによる新たな交流人口の増加を目指します。

- ①新規就農者増加数 8経営体16名 ②産地面積の増加 5.3ha→7.0ha
- ③養液栽培技術の確立 年間収量30t/10a ④交流体験等への参加者数 1,000人

目標に向けた活動概要

- 1 キュウリ養液栽培技術の確立および収量増技術の確立
- 2 海部きゅうり塾生の募集・育成
- 3 産地拡大に向けた新規就農者の育成と労働力の確保

普及活動の成果

1 キュウリ栽培技術の確立

(1) 養液栽培技術の確立

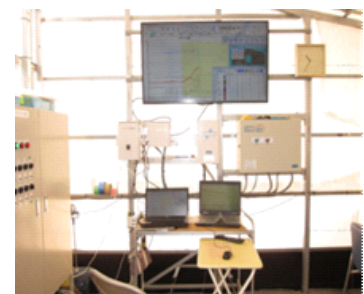
次世代園芸実験ハウスを拠点に養液栽培技術の確立を目指し、目標収量（30 t / 10 a）を達成するために、冬春越冬作の栽培の問題点の洗い出しを行いました。その結果、施肥管理に課題があることが明らかになり、養液栽培者と情報共有することで生育状況が改善され、年間収量29 t / 10 a（最高）に達しています。



生育情報等の共有

(2) 環境制御技術の推進

導入された複合環境制御装置の通信ネットワークを活用し、各栽培ハウスの施設内環境を比較分析することにより、生育・収量の改善に繋がっています。



複合環境制御装置の活用

(3) 養液土耕栽培の検討

日射比例による養液土耕栽培実証ほを設置した結果、低コスト（施肥N量3割減）や省力化が図られ、収量120%増に繋がることが明らかになり、新たに7戸が導入しました。

2 海部きゅうり塾生の募集・育成

海部きゅうり塾6期生（3名）については、「海部きゅうり塾」のプログラムに、新たにベテラン農家の施設で、キュウリ栽培を学ぶトレーニングファームを採用することで、より実践的な研修を実施しました。

また、新たな海部きゅうり塾生の募集に向け、PR動画を作成するとともに、オンラインとリアルできゅうりタウンを体験するツアー（R1～R4：661人）を実施しました。

なお、令和2年度～4年度の新規栽培者数は、12名となっています。



キュウリ版トレーニングファーム

3 産地拡大に向けた新規就農者の育成と労働力の確保

(1) 作業を補完するきゅうりヘルパーの育成

促成胡瓜部会に対して労働力補完需要調査を実施したところ、連日11時間以上の労働を行っている栽培者がいることや、産地全体で15名のヘルパーの確保が必要であることが明らかになりました。そこで、JAかいふが開設している「農作業無料職業紹介所」と連携し、新聞折込等で募集を行いました。また、生産者とヘルパーのマッチングを促す「1日農業バイト」アプリの運用を開始し、ヘルパーの確保を支援しました。



「1日農業バイトアプリ」生産者説明会



今後の発展方向

「きゅうりタウン構想」の推進の成果として就農者16経営体・20名、1haの次世代園芸団地が整備されました。

- ・「海部きゅうり塾」では、令和4年度に新たに2名（1組）が入塾するなど、移住就農者を中心に29名を受入れ、20名が就農（土耕栽培10名、養液栽培10名）しました。これからも新規就農者の確保に努めます。

- ・魅力ある栽培技術と位置づける「養液栽培」については、目標である年間収量30t/10aを上回る技術確立に努めます。

- ・農業の関係人口を増やし、移住就農をはじめ、新規就農者の確保に努めます。

関係者からの声

- ・海部地域が一体となって取り組んだ結果、移住就農者を中心にこれまで29名が「海部きゅうり塾」に入塾し、20名が新たにきゅうり栽培を開始している。今後も連携して一緒に取り組んでいきたい（JA関係者）

- ・私達が、儲かる農業を実証し、「きゅうりタウン構想」が本当の町づくりとなるよう頑張りたい。（新規就農者）

美波農業支援センター

連絡先：徳島県海部郡美波町奥河内字弁才天17-1 tel：0884-74-7491